

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

| | |
|---------|-----------|
| 記入者名 | |
| 記入年月日 | 2009/3/27 |
| 学部・研究科名 | 山口大学 経済学部 |
| 学科・専攻等名 | 経営学科 |
| コース等名 | |

| 学部・研究科の教育目的(具体的に記述・箇条書き) | | | 学科・専攻科等の教育目的(具体的に記述・箇条書き) | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|-----------------------------------|-------------------------------------|--|--|--|--|--|
| 1. 「発見し、はぐくみ、かたちにする」を体現する人材を育成する。 2. 自ら問いを見だし、見出した問いを自らの中にはぐくんで解決の方策を探求したり、あるいは自ら進むべき道を模索したりすることができる人材を育成する。 3. 探求や模索の結果得られた知見や考えを生かす能力を養い、世界や社会に貢献し得る実践的経済人を育成する。 | | | 1. 企業行動に伴って生起する諸問題を理解し、解決に至る道筋を考える基礎的な力を身につけ、経営、情報、会計、流通などの分野で社会に貢献できる人材を育てる。 | | | | | | | | |
| 学部・研究科等のカリキュラム | | | 学科・研究科等のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項) | | | | | | | | |
| 授業科目名 | 授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。) | 授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。) | A. ミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学、簿記、あるいは経営学をはじめとする専門的知識を修得し、企業行動に伴って生起する諸問題を理解することができる能力を身につける。 | B. <経営管理>経営経済、経営史、企業行動、経営管理に関わる知識を習得する。 | C. <経営情報>経営問題を数理モデルにより理解することができる。 | D. <企業会計>企業の経済活動の結果を計数的に把握することができる。 | E. <流通システム>商品自体、あるいは商品の流通・マーケティング活動、保険の活動を巡る諸問題を理解できる。 | | | | |
| 経営学総論 | 経営学の基礎理論の習得 前半:経営学の基礎理論 後半:経営組織論 | 基礎理論の習得(専門用語を使つての議論) | | ◎ | | | | | | | |
| 経営管理論 | 経営管理の基礎理論と最近の時事問題に対する理解 | 基礎理論の習得(専門用語を使つての議論) | | ◎ | | | | | | | |
| 労務管理論 | 労務管理に関する基本知識を習得する。 | 労務管理に関する知識を深める。 | | ◎ | | | | | | | |
| 財務管理論 | 企業の資金調達ならびに運用の基礎理論の理解と財務分析 | 財務分析、資本コスト、MM理論、 | | ◎ | | | | | | | |
| 生産管理論 | 生産管理の基礎理論と最近の動向 | 基礎理論の習得(専門用語を使つての議論) | | ◎ | | | | | | | |
| 国際経営論 | 国際経営に特有の経営管理問題、その解決策、および今後の展望を学習。 | 1. 国際経営に特有の経営管理問題 2. 国際経営の基礎理論 3. 国際経営の事例 | ○ | ◎ | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|---|--|---|--|--|--|--|--|
| 経営戦略論 | 経営戦略に関する基本的知識を習得する。 | 経営戦略に関する知識を深める。 | | ◎ | | | | | | | | | |
| 投資論 | 市場価格の基礎理論と行動ファイナンスの理論および、データに対する理解を考察する | 1. 市場価格の理論2. 行動ファイナンスの理論 | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 経営史 | 1. 経営史(Business History)の対象、方法、内容について概説し、経営史の世界の理解を深める。 2. 19世紀産業と20世紀産業の経営史を比較して、現代企業経営システムの遡源を知るために、20世紀経営史の理解を深める。 3. 現代企業の経営システムを概観し、20世紀に生れた経営システムがどのような歴史的發展をへて今日のシステムへ至ったかを理解する。 | 1. 経営史の学問の誕生とその歴史的背景を理解する。 2. 19世紀経営史と20世紀経営史の違いを理解する。 3. 現代企業のビジネスシステムの歴史的發展プロセスを理解する。 4. 現代経営学の諸学(経営学説、経営戦略論、組織論、生産管理論、人事管理論、会計、マーケティングなど)がどのような経営史的背景で発展したかを理解する。 | | ◎ | | | | | | | | | |
| 日本経営史 | 日本経営史に関する基本的知識を習得する。 | 日本経営史に関する知識を深める。 | | ◎ | | | | | | | | | |
| 欧米経営史 | 欧米経営史に関する基本的知識を習得する。 | 欧米経営史に関する知識を深める。 | | ◎ | | | | | | | | | |
| 企業論 | 企業論に関する基本的知識を習得する。 | 企業論に関する知識を深める。 | | ◎ | | | | | | | | | |
| 新事業創造論 | 新事業創造に関する基本的知識を習得する。 | 新事業創造に関する知識を深める。 | ○ | ◎ | | | | | | | | | |
| 多国籍企業論 | 多国籍化によって生じる問題点や課題などについて理論と事例を交えながら学習。 | 1. 多国籍化の理論の習得 2. 日本企業の他国成果の歴史と現状 | ○ | ◎ | | | | | | | | | |
| 経営工学 | 1. 経営工学の基本的事項を主としてネットワーク計画問題を中心に概説する。 2. ネットワーク計画問題の具体例と主要な解法について紹介する。 | 1. 基本的なネットワーク計画問題を理解する。 2. ネットワーク計画問題のアルゴリズムの考え方を理解する。 | △ | △ | ◎ | | | △ | | | | | |
| 情報科学 | 情報技術の理解をとおして、情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて述べる。また、電子商取引やネットワーク犯罪等、最近の話題についても学習する。 | 情報技術や情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて理解する。 | △ | | ◎ | △ | | △ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| 情報処理論 | 経営科学におけるいろいろな問題を取りあげ、数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する。 | 経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する。 | △ | △ | ◎ | | △ | | | | | |
| 経営数学 | 1. 経営に関わる数値データの意味を理解させる。 2. 経営問題に対する確立した解法を説明する。 3. 理解した解法をパーソナルコンピュータ等を使用して確認し、知識として定着させる。 | 1. 経営問題の数値的側面を理解する 2. 数学的素養を身につける 3. 経営問題に数学的知識を適用できる | | | ◎ | | | | | | | |
| 経営統計 | 経営統計に関する基本的知識を習得する。 | 経営統計に関する知識を深める。 | | | ◎ | | | | | | | |
| 会計学 | 1. 会計と社会の関係を理解させる。 2. 財務諸表を読む基礎を理解させる。 3. 原価配分と収益基準の学習 | 1. 会計原則の理解 2. 現行の取得原価主義会計の理解 3. 財務諸表分析の基礎を身につける。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| 税務会計論 | 1. 課税所得計算に関する基礎知識を説明する。 2. 会計利益と課税所得の相違を説明する。 3. 企業の投資意思決定に与える税金の影響を説明する。 | 1. 課税所得を計算するプロセスを理解する。 2. 会計利益と課税所得の相違を理解し、そのような相違が生じる背景について考える。 3. 企業の投資意思決定に与える税金の影響について考察する。 | ○ | ○ | | ◎ | | | | | | |
| 会計監査1 | 簿記の基礎知識の取得と確認、監査の基本的な概念の理解と簡易な監査手続の理解、について学習する。 | 簿記2級合格レベルの知識・考え方(貸借対照表・損益計算書の作成、簡易な監査概念・手続きの理解等)。 | | | | ◎ | | | | | | |
| 会計監査2 | 簿記の上級知識の取得と確認、監査の基本的な概念の理解と一般的な監査手続の理解、について学習する。 | 簿記1級合格レベルの知識・考え方(貸借対照表・損益計算書の作成、一般的な監査概念・手続きの理解等)。 | | | | ◎ | | | | | | |
| 簿記1 | 1. 会計の基礎を学習する。 2. 複式簿記の基礎を勉強する。 | 1. 財務諸表の損益計算書と貸借対照表の関係の理解 2. 原価配分・期間配分の理解 3. 精算表を作成できるようにする。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | |
| 簿記2 | 1. 株式会社会計の基礎を学習する。 2. 信用取引を学習する。 3. 有価証券等を学習する。 | 特殊商品売買・有価証券・手形・荷為替手形・繰延資産・税金・株式会社会計の基礎を理解する。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| 簿記3 | 1. 連結会計の基本を説明する。 2. 連結会計財務諸表の作成方法を学習する。 | 1. 連結財務諸表の3表の関連を理解する。 2. 連結財務諸表作成手続を身につける。 3. 資本連結、成果連結をできるようにする。 | | | | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|------------|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|
| 工業簿記 | 1. 工業簿記の基本概念を概説する。 | 1. 製品やサービスを作るプロセスを貨幣価値で表現する考え方や手法を身につける。 2. 日商簿記検定試験2級レベルの計算手法を身につける。 | | | | ◎ | | | | | |
| 原価計算論1 | 1. 原価の概念を説明すること。 2. 原価計算の目的や仕組みを説明すること。 3. 個別原価計算と総合原価計算について説明すること。 4. 減損、仕損品等が生じる場合の製品原価の計算方法を説明すること。 5. 結合原価の処理方法を説明すること。 | 1. 原価の概念を理解すること。 2. 原価計算の目的や仕組みを理解すること。 3. 個別原価計算と総合原価計算について理解すること。 4. 減損、仕損品等が生じる場合の製品原価の計算方法を理解すること。 5. 結合原価の処理方法を理解すること。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | | | | |
| 原価計算論II | 1. 標準原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリング、JITに対応した原価計算、などについて説明すること。 2. 戦略的コスト・マネジメントの課題について説明すること。 3. 企業の置かれた環境と使用する原価計算システムの関係について説明すること。 | 1. 標準原価計算、直接原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリング、JITに対応した原価計算、などについて理解すること。 2. 戦略的コスト・マネジメントの課題について理解すること。 3. 企業の置かれた環境と使用する原価計算システムの関係について理解すること。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | | | | |
| 経営分析論 | 経営分析に関する基本的知識を習得する。 | 経営分析に関する知識を深める。 | | | | ◎ | | | | | |
| 管理会計論I | 1. 管理会計の基本概念を概説する。 2. 消費者により大きな価値をより少ないコストで提供するための様々なマネジメントについて説明する。 | 1. 従業員を動機付けするためのマネジメント手法について理解する。 2. 経営管理者の意志決定に必要な会計情報について理解する。 | | | | ◎ | | | | | |
| 管理会計論2 | 管理会計に関する基本的知識を習得する。 | 管理会計に関する知識を深める。 | | | | ◎ | | | | | |
| 流通論 | 流通現象を理解するために理論的な視座を修得する。 | 1. 流通論の体系と個別理論を理解する。 2. 流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |
| マーケティング論 | マーケティング現象を理解するための基本枠組みと基本概念、分析方法を修得する。 | マーケティングに関する専門知識を深める。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |
| マーケティング戦略論 | 1. マーケティングに関する基本的知識、研究方法を修得する。 2. マーケティング現象を引き起こす要因間の因果関係を分析できる能力を養う。 | マーケティング戦略に関する専門知識を深める。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |
| 商品学 | 商品の概念、品質、標準化、商品開発、デザインとパッケージ、サービス、安全性、ライフスタイル、ブランド、環境、少子高齢社会における商品、商品と社会 | 商品をめぐる諸問題を知り、理論的枠組みを使って理解する。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|--|---|---|---|---|---|--|--|--|--|
| 商品開発論 | マーケティング・マネジメント、新製品開発のマーケティング、顧客志向と顧客代行、戦略的アライアンス、ブランド価値のデザイン、ブランド戦略、ドメイン、競争と協調、経営資源とビジネスシステム、商品開発と企業戦略 | 商品開発をめぐる諸問題を知り、理論的な枠組みを使って理解する。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |
| 保険論 I | 1. 保険制度の根幹を成す原理・原則と特殊技術、付保危険の要件、そしてプライシングを理解する。 2. 保険の金融機能と保険規制の役割を理解する。 | 1. 確率論・統計理論を習得して、リスク分析能力を身に付ける。 2. 機関投資家の行動について深い洞察をえる。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |
| 保険論 II | 高齢社会における年金・医療・介護などの諸問題を幅広く学習する。世代間の順送りの扶養・助け合いシステムである公的年金制度では、高齢化に伴いとくに若い勤労者の保険料負担が高騰している。こうした事態は若年世代の可処分所得の伸びを抑え、また企業の労働コストを押し上げることで、わが国の経済活力に悪影響を及ぼしている。そこで、各制度を解説しその現状を統計資料を用いて確認しながら、その解決策を考えていく。 | 高齢社会における社会保険の役割や財政問題を学ぶことで、生活保障における公私役割分担や、望ましい市場と組織の機能について習得する。 | ○ | ○ | | | ◎ | | | | |
| 演習 I | 経営学の専門知識の習得とプレゼンテーション | 経営学の知識を習得し、経営思考を身につける。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| 演習 II | 経営学の基本知識を理解し、個別問題について、発展的に学習する。 | 経営学の個別問題について、基本的理解と論点をプレゼンテーションできる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| 卒業論文演習 | 経営学の専門知識と論理の展開、思考力の | 経営学の専門知識の正しい理解と活用によって、論文が展開できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| GP項目別到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き) | | | | | | | | | | | |
| 総合的GP到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き) | | | | | | | | | | | |

例 卒業研究の達成度判定基準

| 発表内容に関する到達度判定 | |
|---------------|----|
| 判定する項目 | 判定 |
| | |
| | |
| | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |

| 発表技法に関する到達度判定 | | |
|---------------|--|----|
| 判定する項目 | | 判定 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |